

行政の窓

木材・木製品の貿易動向について

【 我が国の木材貿易 】

我が国の木材輸入額は、林野庁「2007年木材輸入実績」によると、紙・板紙類、パルプを除き、平成19年13,944億円（前年比101%）とほぼ前年並みとなった。

国別輸入額は、中国が最も多く1,838億円（前年比101%）、次いでマレーシア1,800億円（前年比90%）で、オーストラリアはチップ輸入が増えて20%以上増加した。

品目別輸入量及び輸入額は、丸太が897万m³（前年比85%）2,070億円（前年比97%）、製材は735万m³（前年比86%）3,104億円（前年比98%）で丸太、製材ともに輸入量が減少した。特に、北洋材は丸太輸入の45%を占め、樹種別ではカラマツ259万m³、モミ・トウヒ（エゾマツ・トドマツ）42万m³が輸入されている。

【 ロシア丸太輸出税引き上げの影響 】

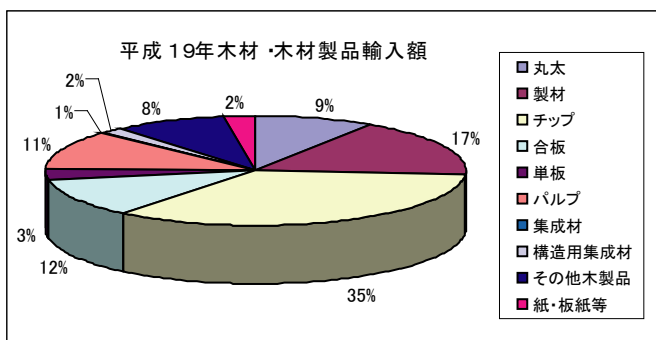
北洋材は、ロシア国内の木材加工の推進を目的とした丸太輸出税引き上げにより、貿易の転換期を迎えた。

ロシア丸太輸出税の引き上げに対し、中国、フィンランド、日本等の民間による工場建設への投資が始まっている。

日本政府も、平成20年8月の日露農相会談等、様々な機会を捉え輸出税引き上げの撤回等をロシアに申し入れているが、一方で国産材の利用が増加し、国産材自給率は平成19年22.6%と平成10年並みまで回復した。

【 北海道の木材貿易と道産材供給率 】

平成19年北海道の輸入実績は、紙・板紙類や木材製品を含め965億円（前年比111%）、品目別はチップが35%を占め335億円（前年比138%）と増加の一方、丸太89億円（前年比95%）、製材163億円（前年比95%）で軒並み減少した。この背景には、ロシア丸太輸出税引き上げ、船運賃等の上昇、産地価格の高騰等の他、道内では道産広葉樹チップの減少や住宅着工の減少等の理由が指摘されている。輸出税問題を契機に、カラマツ等の道産材の利用が増え、平成19年度の道産材供給率は前年度に比べ0.7%上昇し52.7%となった。



（財務省貿易統計より）

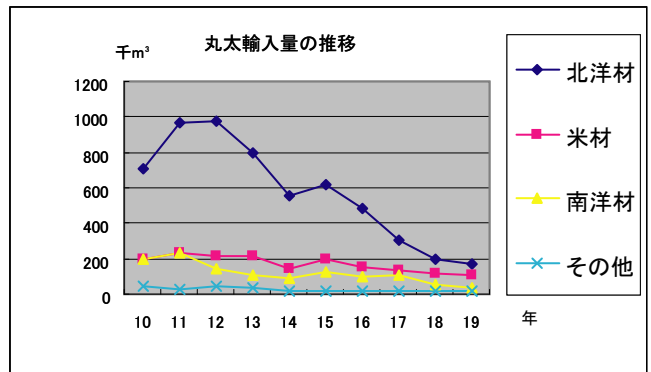
【 北海道の丸太輸入 】

丸太輸入量は、平成11年以降減少傾向にあり、平成19年は327千m³前年比84%、平成20年上半期も前年同期比53%と輸入量の減少傾向は止まらなかった。

北洋材は、平成19年172千m³と平成11年の5分の1以下まで減少、平成20年1月の輸出税の再引き上げもあり、平成20年上半期の輸入量は前年同期比37%まで落ち込んだ。米材は、原油高、船舶不足等による船運賃高騰や米国の木材市況の低迷等が出材意欲の低下を招いて漸減傾向が続き、平成19年107千m³前年比91%、平成20年上半期は前年同期比62%まで輸入量は減った。南洋材も、需要減等により平成19年33千m³前年比62%と漸減傾向が続いているが、平成20年上半期は、道内工場の操業再開等もあり、前年同期比164%と大幅増に転じた。

○ 北海道の丸太輸入量 (単位：千 m³・%)

年	北洋材	米材	南洋材	その他	合計
10	704	200	200	49	1,153
11	967	234	230	28	1,459
12	980	212	147	49	1,388
13	799	213	108	33	1,153
14	554	144	93	18	809
15	622	198	123	18	961
16	488	150	99	15	752
17	305	133	103	17	558
18	200	118	53	16	387
19	172	107	33	16	327
(H19/H18)	86	91	62	100	84
(19上半期)	126	66	11	16	219
(20上半期)	46	41	18	16	115
(H20/H19)	37	62	164	100	53



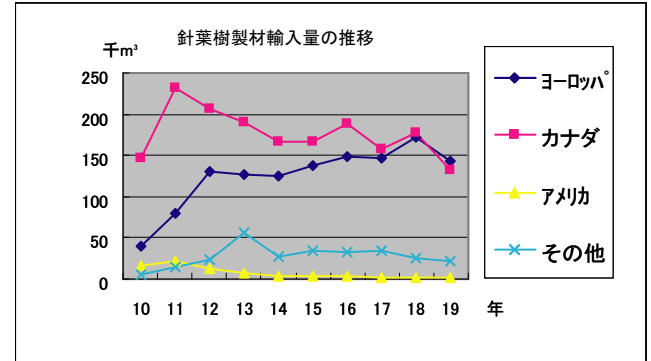
【 針葉樹製材の輸入 】

針葉樹製材の輸入量は、35万 m³ 前後で推移してきたが、平成 19 年は平成 10 年来初めて 30 万 m³ を下回り前年比 79%，平成 20 年上半期さらに減少傾向が続き、105 千 m³ 前年同期比 53% となった。

主要国別では、ヨーロッパからの輸入が初めてカナダを上回った。しかし、平成 20 年上半期にはカナダから 2×4 用材等の輸入が増え、カナダのみが輸入量を増やしている。一方、ヨーロッパは、産地の原料高や急激なユーロ高等から、主要輸入国のスウェーデン、フィンランド、オーストリアが軒並み輸入量を減らし、平成 19 年は 144 千 m³ 前年比 83%，平成 20 年上半期も前年同月比 29% と激減した。

○ 針葉樹製材輸入量 (単位：千 m³・%)

年	ヨーロッパ	カナダ	アメリカ	その他	合計
10	40	146	16	6	208
11	79	232	22	14	347
12	130	207	13	23	373
13	127	190	7	56	345
14	125	167	4	27	323
15	138	167	4	35	344
16	149	189	3	33	374
17	147	158	2	35	342
18	173	178	1	26	378
19	144	132	1	21	298
(H19/H18)	83	74	100	81	79
19上半期	91	75	0.2	31	197
20上半期	26	71	2	19	105
(H20/H19)	29	95	10	61	53



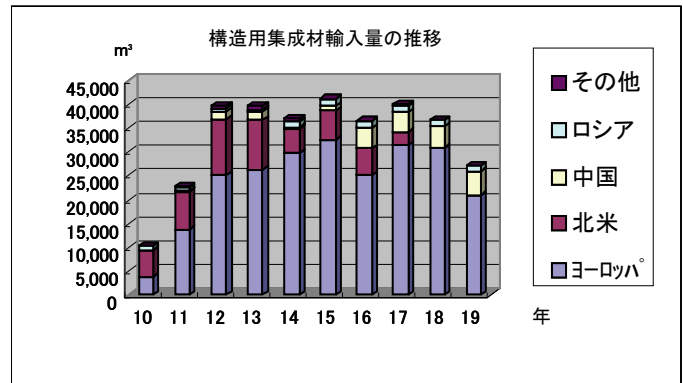
○ ヨーロッパ主要国別輸入量 (単位：千 m³・%)

年	スウェーデン	フィンランド	オーストリア	ルーマニア	他ヨーロッパ	合計
18	20	80	46	21	6	173
19	11	70	39	17	7	144
(H19/H18)	55	88	85	81	117	83
19上半期	8	44	27	10	2	91
20上半期	3	14	4	3	4	28
(H20/H19)	38	32	15	30	200	31

【 構造用集成材の輸入 】

構造用集成材の輸入量は、住宅着工戸数の減少等もあり、平成19年は前年から約10千m³減の27千m³で前年比74%、平成20年上半期は減少傾向が一層強まり前年同期比44%となった。これは、輸入量の77%を占めるヨーロッパのうち、フィンランドが産地のコスト高やユーロ高の影響、ロシア輸出税問題等により、前年比44%と激減したことによる。

一方、平成19年は5千m³前年比112%と増加し、年々輸入を増やしてきた中国も、平成20年上半期は前年同期比30%と大幅減となった。



○ 構造用集成材輸入量

(単位：m³・%)

年	ヨーロッパ	うちフィンランド	カナダ	アメリカ	中国	ロシア	その他	合計
10	3,811	1,165	4,586	991	58	781	96	10,323
11	13,726	3,864	6,261	1,742	179	668	322	22,898
12	25,102	6,543	9,572	2,278	1,573	685	534	39,744
13	26,243	7,909	8,832	1,727	1,688	447	677	39,614
14	29,847	4,868	3,402	1,634	296	1,300	663	37,142
15	32,637	15,736	4,695	1,283	1,177	1,373	26	41,191
16	25,170	14,510	4,778	816	4,206	1,559	88	36,617
17	31,392	18,549	2,761	135	4,050	1,390	214	39,942
18	30,750	24,145	68	102	4,513	1,212	0	36,645
19	20,797	15,530	0	157	5,037	1,117	0	27,048
(H19/H18)	68	64	-	154	112	92	-	74
19上半期	13,313	9,683	0	68	3,047	946	0	17,374
20上半期	6,382	4,241	0	44	915	257	0	7,598
(H20/H19)	48	44	-	65	30	27	-	44

円高、ユーロ安が短期間で進み、輸入しやすい環境もでてきたが、住宅着工は低迷しており、為替変動が輸入増に直結する情勢ではなく、国内の景気回復が輸入動向を大きく左右する要因となっている。

(水産林務部林務局 林業木材課木材産業グループ)